

【科目名】耳鼻咽喉科学		【担当教員】高橋 圭三							
【授業区分】専門分野 (聴覚障害学)		【授業コード】5-31-1195-0-1		(メールアドレス) Takahashik@nur.ac.jp					
【開講時期】2年次 前期		【選択必修】必修		(オフィスアワー)					
【単位数】1		【コマ数】8 コマ		月～水 5 限					
<b>【注意事項】</b> (受講者に関わる情報・履修条件) 必修科目で、講義への出席は重要です。試験及び国家試験で問われることの多い事項を重点的に講義します。 (受講のルールに関わる情報・予備知識) 特になし。									
<b>【講義概要】</b> (目的) 言語聴覚士が対応する各種の障害 (聴覚障害・構音障害・摂食嚥下障害) は耳鼻咽喉科学領域 (耳科学・鼻科学・口腔科学・咽喉科学) の障害で耳鼻咽喉科学領域の各器官の解剖 (構造)・生理 (機能)、さらに病態生理を理解することを目的とする。 (方法) 耳鼻咽喉科学領域全般の基礎的事項について概略を講義を通して学ぶ。また各論では各疾患毎の病態生理、そしてそれらに対する 検査やリハビリテーションなどに関する言語聴覚士として必要な事項について講義を通して学習する。									
<b>【一般教育目標(GIO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能など、基礎的事項について理解を深める。</li> <li>各疾患の病態生理を理解し、検査やリハビリテーションなど言語聴覚士として必要な知識を身につける。</li> </ul> <b>【行動目標(SBO)】</b> <ul style="list-style-type: none"> <li>耳鼻咽喉科学領域の各器官の構造・機能を説明できる</li> <li>各疾患の病態生理を理解し、それに関わる検査を説明できる</li> </ul>									
<b>【教科書・リザーブドブック】</b> 森満 保・『イラスト耳鼻咽喉科 第4版』文光堂, 2012年. ¥5,154									
<b>【参考書】</b> 鳥山 稔・『言語聴覚士のための基礎知識 耳鼻咽喉科学』医学書院, 2002年. ¥3,990									
<b>【評価に関わる情報】</b> (評価の基準・方法) 定期試験を行う。成績評価基準は本学学則規定の GPA 制度に従う。									
【達成度評価】		試験	小テスト	レポート	成果発表	実技	ポートフォリオ	その他	合計
総合評価割合		80	20						100点
評	取り込む力・知識	80	20						100

平成 26～28 年度入学者用

価値指標	思考・推論・創造の力								
	コラボレーションとリーダーシップ								
	発表力								
	学修に取り組む姿勢								
【授業日程と内容】									
回数	講義内容	授業の運営方法		学修課題(予習・復習)	時間(分)				
1	耳科学①外耳・中耳・内耳・後迷路の構造・機能(聴覚医学の復習)	講義		予習・復習：P.3～28	60				
2	耳科学②外耳・中耳・内耳・後迷路の疾患(聴覚医学の復習)	講義		予習・復習：P.42～45	45				
3	耳科学③顔面神経の構造と機能、顔面神経麻痺、聴力改善手術	講義		予習・復習：P.124～129	45				
4	耳科学④前庭・平衡系の構造・機能・検査	講義		予習・復習：P.66～73	60				
5	耳科学⑤めまい疾患(メニエール病、良性発作性頭位眩暈、前庭神経炎など)	講義		予習・復習：プリント	60				
6	鼻科学①鼻副鼻腔の構造・機能・検査、嗅覚、嗅覚障害	講義		予習・復習：P.133～155	45				
7	鼻科学②鼻副鼻腔の疾患(外鼻疾患、形態異常、外傷など)	講義		予習・復習：P.158～194	45				
8	口腔・咽頭科学①口腔・咽頭の構造・機能・検査	講義		予習・復習：P.197～238	60				

※授業日・教室は随時学生ポータルサイトにて配信します。

※ここに示す学修課題の時間は、必要とする授業外の学修時間(授業時間の3倍)に含むべき時間を示します。